

福島県総合計画のかんたんガイド

『福島県総合計画（2022▷2030）』全320ページからなるこの計画の中で、読んでほしいポイントをまとめています。まずはここを中心に読んでみてください。

POINT 1 計画の全体構成

POINT 2 県づくりの理念・基本目標・将来の姿

POINT 3 課題から計画までの構成

POINT 4 具体的な取組、指標など

POINT 5 地域別の主要施策

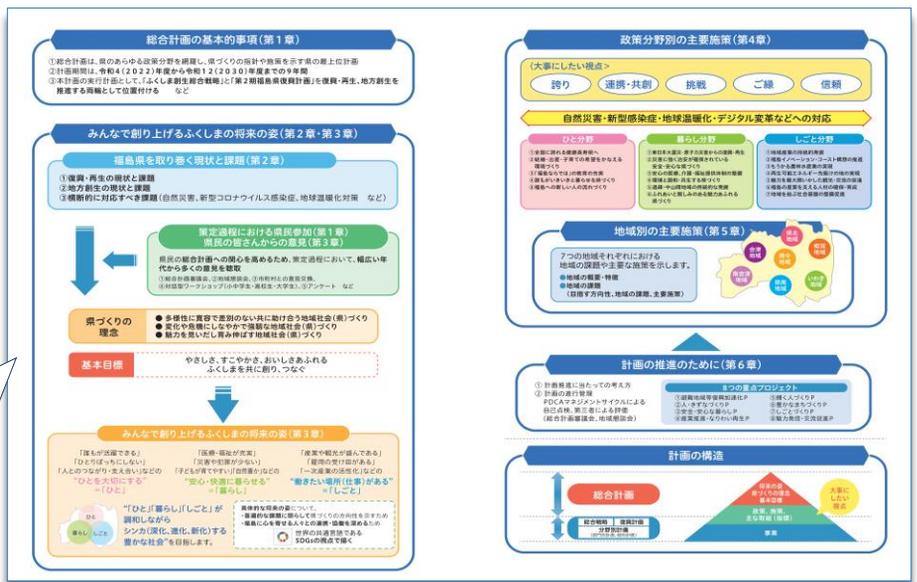
POINT 6 進行管理



POINT 1 計画の全体構成

P6~17

総合計画がどのように構成されているか。第1章から第6章（全6章）までの計画の流れや仕組みを記載しています。



POINT 2 県づくりの理念・基本目標・将来の姿

2 県づくりの理念

第2章「福島県を取り巻く現状と課題」と、県民の皆さんから頂いた意見を踏まえ、県民の皆さん、民間団体、市町村、県が連携しながら、「福島ならではの」将来の姿を実現するために共有する総合計画の課題にある根本的な考え方を「県づくりの理念」を整理します。

◆福島県を取り巻く現状と課題（第2章）

第2章「福島県を取り巻く現状と課題」においては、具体的に解決を進めべき課題が箇条書きで整理されています。

県日本国からの復興・再生	人口減少対策（＝地方創生）	機動的に対応すべき課題
<ul style="list-style-type: none"> 避難者の帰郷・再定住 避難者の生活再建 避難先・被災地に対する支援 避難先・インターネット・コミュニティ 避難者の健康 避難者の就業・地域産業の再生 避難先を支援するインフラ等の整備 避難先・被災地・復興の連携 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化・少子高齢化への対応 高齢者の生活再建・就業 少子化・出生率の低下 就業・労働市場の活性化 就業・労働市場の活性化 就業・労働市場の活性化 就業・労働市場の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 避難先・避難先への対応 避難先・避難先への対応 避難先・避難先への対応 避難先・避難先への対応 避難先・避難先への対応 避難先・避難先への対応 避難先・避難先への対応

◆県づくりの理念

多様性に寛容で差別のない「共に創り出す」地域社会（県）づくり
「やさしさ、すこやかさ、おいしさあふれるふくしまを共に創り、つなぐ」

変化や危機にしながら強靭な地域社会（県）づくり
（即応力、回復力、結束力）

活力をいだし創り出す地域社会（県）づくり
（即応力、回復力、結束力）

3 基本目標

県づくりの理念の下、県のみならず、あらゆる主体が「福島ならではの」将来の姿の実現に向け、連携しながら県づくり・地域社会づくりに取り組めるよう、基本目標を以下のとおり設定します。

基本目標については、9年後を見直し、自然災害や新型コロナウイルス感染症などの課題を乗り越え、東日本大震災・原子力災害から原子力災害の取組を蓄え進めた上で、「世代を超えてつなぐ、あたたかくいふ」をイメージして設定しています。

【令和12（2020）年度を見直しした基本目標】

やさしさ、すこやかさ、おいしさあふれるふくしまを共に創り、つなぐ

◆「やさしさ」「すこやかさ」「おいしさ」を基本目標に設定した理由

県民の生活や健康、産業・経済活動の発展に「やさしさ」「すこやかさ」「おいしさ」が不可欠である。また、自然災害や新型コロナウイルス感染症などの課題を乗り越え、東日本大震災・原子力災害から原子力災害の取組を蓄え進めた上で、「世代を超えてつなぐ、あたたかくいふ」をイメージして設定しています。

【目標に掲げたために得られる効果】

この基本目標の達成に向けた様々な取組を進める上で、原子力災害による長期にわたる復興作業や環境回復の取組、避難生活の継続や避難先での生活・生産の再生、生活インフラの再生、産業の再生、さらには県民の生活や健康の向上による県民生活の向上などが蓄え進められていくことが期待されます。この目標が達成されると、本県の復興・再生の取組がより進捗する可能性があることから、引き続き、国・県・市町村の連携を求めつつ、国・県・市町村が一体となって取組を進め、かけがえのないふくしまを創り出すことが必要です。

P32~33

(1) 県づくりの理念・基本目標

本計画の根底にある根本的な考え方「県づくりの理念」や計画の基本目標を示しています。

P34~35

(2) 将来の姿

(1)の理念や基本目標を踏まえ、10年後にどんなふくしまを目指しているのか、何を大切にしているのかをふくしまの将来の姿として「ひと」「暮らし」「しごと」の3つの分野により整理しまとめています。

4 みんなで創り上げるふくしまの将来の姿

◆県民の皆さんから頂いた意見の分析
県民の皆さんから頂いたふくしまの将来の姿についての意見を集約し、整理して見ると、大きく次の3つに集約できます。

「誰もが活躍できる」 「ひと」が活躍できる 「ふくしまを創り出す」 などの意見 ⇒「ひとを大切に育てる」 (=ひと)	「教育・福祉が充実」 「子育てしやすい」 「子どもが育ちやすい」 などの意見 ⇒“安心・子育てをさせよう” (=暮らし)	「産業や観光が盛んである」 「雇用が豊富にある」 「仕事場の活性化」 などの意見 ⇒働きがいや成長(仕事)がある (=しごと)
---	---	--

県民の皆さんから頂いた意見から抽出した「ひと」「暮らし」「しごと」の3つの分野は、相互に関連があり、相乗効果があると考えれば、相乗する関係にある場合もあります。大きな3つの柱(目標)を軸として、相乗効果を生み出す関係性を構築していくことで、これらを実現し、本県の発展を促します。

「ひと」「暮らし」「しごと」が調和しながらシシカ(深化、進化、新化)する豊かな社会”も、新たな目標としてまいります。

◆「ひと」を大切に育てる
「ひと」(ひとを大切に育てる)
●誰もが活躍できる社会で、人とのつながりを大切にしながら、いきいきと暮らしている。
●(健康) 病気の健康意識や、被災者のために迅速な支援などにより、県民の健康の維持、増進及び支障が軽減されている。
●(教育) 幼少・学童期の教育や、生涯学習などを通じて、幅広い世代が学び、成長している。
●(安全) 安心・子育てを促す環境を整え、安全・安心な暮らしが確保されている。
●(雇用) 雇用機会を創出し、若者の就業支援や、高齢者の就業支援などを通じて、誰もが活躍できる社会を創出している。
●(生活) 誰もが安心して暮らすことができる社会を創出している。
●(福祉) 誰もが安心して暮らすことができる社会を創出している。
●(子育て) 安心して子育てを促す環境を整え、安全・安心な暮らしが確保されている。
●(産業) 誰もが活躍できる社会を創出している。
●(観光) 誰もが活躍できる社会を創出している。
●(雇用) 誰もが活躍できる社会を創出している。
●(生活) 誰もが安心して暮らすことができる社会を創出している。

◆「暮らし」(=安心・快適に暮らせる)
●(健康) 誰もが安心して暮らすことができる社会を創出している。
●(教育) 誰もが安心して暮らすことができる社会を創出している。
●(安全) 安心して暮らすことができる社会を創出している。
●(雇用) 誰もが活躍できる社会を創出している。
●(生活) 誰もが安心して暮らすことができる社会を創出している。
●(福祉) 誰もが安心して暮らすことができる社会を創出している。
●(子育て) 安心して子育てを促す環境を整え、安全・安心な暮らしが確保されている。
●(産業) 誰もが活躍できる社会を創出している。
●(観光) 誰もが活躍できる社会を創出している。
●(雇用) 誰もが活躍できる社会を創出している。
●(生活) 誰もが安心して暮らすことができる社会を創出している。

◆「しごと」(=働きがいや成長(仕事)がある)
●(健康) 誰もが安心して暮らすことができる社会を創出している。
●(教育) 誰もが安心して暮らすことができる社会を創出している。
●(安全) 安心して暮らすことができる社会を創出している。
●(雇用) 誰もが活躍できる社会を創出している。
●(生活) 誰もが安心して暮らすことができる社会を創出している。
●(福祉) 誰もが安心して暮らすことができる社会を創出している。
●(子育て) 安心して子育てを促す環境を整え、安全・安心な暮らしが確保されている。
●(産業) 誰もが活躍できる社会を創出している。
●(観光) 誰もが活躍できる社会を創出している。
●(雇用) 誰もが活躍できる社会を創出している。
●(生活) 誰もが安心して暮らすことができる社会を創出している。

将来の姿

「ひと」「暮らし」「しごと」が調和しながらシシカ(深化、進化、新化)する豊かな社会



イメージイラストのコンセプト
県土から伸びる木の幹から分かれる枝葉(=ひと、暮らし、しごと)がそれぞれ大きく育ち、豊かな部分(=強み)が色濃く育っています。木は根土に深く根を張り(=深い)、幹と枝葉を大きくし(=進化)、日々新たな枝葉が芽生えています(=新化)。

P38~39

(3) SDGs視点の将来の姿

他の地域よりも複雑な課題を抱える本県がどのような姿を目指すのか、福島に心を寄せる人々との連携・協働を深め、普遍的な課題に照らして果づくりの方向性を示すため、「SDGs」の17の目標ごとに本県の将来の姿を整理しています。

(参考)「風のストローク」を総合計画(構想)の理念、基本目標)の発展性

令和12(2030)年度 30年先の将来の姿

◆風のストローク
「ひと」が活躍できる
「ふくしまを創り出す」
「暮らし」が豊かになる
「しごと」が広がる

◆基本目標
やさしさ、すこやかさ、
おひさまの輝きを
ふくしまに届け、つなぐ

◆果づくりの理念
●多様な主体で果づくりを行い、
●地域を元気にし、世代を超えて
●協力しあふ社会を創出する

◆県民の皆さんが
●安心して暮らすこと
●安心して暮らすこと
●安心して暮らすこと

◆SDGsの視点による将来の姿について
SDGs(17項目)は、2030年に「持続可能な開発目標」の達成を目指す。その達成のために取り組まなければならない。

◆SDGsの意義
国連「持続可能な開発目標」の達成を目指す。その達成のために取り組まなければならない。

◆SDGsの意義
国連「持続可能な開発目標」の達成を目指す。その達成のために取り組まなければならない。

◆SDGsの意義
国連「持続可能な開発目標」の達成を目指す。その達成のために取り組まなければならない。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

◆SDGs視点の将来の姿

他の地域よりも複雑な課題を抱える本県がどのような姿を目指すのか、福島に心を寄せる人々との連携・協働を深め、普遍的な課題に照らして果づくりの方向性を示すため、SDGsの17の目標ごとに本県の将来の姿を整理しています。

しごと

働きがいも経済成長も

2 気候変動に具体的な対策を

7 産業と雇用創出

8 働きがいも経済成長も

9 産業と雇用創出

10 人や国の不平等をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任

13 気候変動に具体的な対策を

14 海の豊かさを守ろう

15 陸の豊かさも守ろう

16 平和と公正をすべての人に

17 パートナリシップで目標を達成しよう

ひと

4 質の高い教育をみんなに

5 ジェンダー平等を実現しよう

3 すべての人に健康と福祉を

10 人や国の不平等をなくそう

暮らし

1 貧困をなくそう

2 気候変動に具体的な対策を

3 すべての人に健康と福祉を

4 質の高い教育をみんなに

5 ジェンダー平等を実現しよう

6 安全な水とトイレを世界中に

7 産業と雇用創出

8 働きがいも経済成長も

9 産業と雇用創出

10 人や国の不平等をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任

13 気候変動に具体的な対策を

14 海の豊かさを守ろう

15 陸の豊かさも守ろう

16 平和と公正をすべての人に

17 パートナリシップで目標を達成しよう

POINT 3

課題から指標までの構成

ひと分野

①健康 ②保健 ③教育 ④ジェンダー ⑤・⑥・⑦・⑧・⑨・⑩・⑪・⑫ ⑬保健局長と雇用労務課長 ⑭保健課長 ⑮保健課長 ⑯保健課長 ⑰保健課長 ⑱保健課長

将来の姿	SDGsの視点	主な課題
誰もが生涯を通じて健康で、人とのつながりを大切にしながら、いきいきと暮らしている (県民健康調査や、被災者の状況に応じた支援などにより、県民の健康の増進、増進及び不安解消が図られている)	③若い世代から高齢者まで県民一人一人が心身ともに健康な生活を送っている	・メタボリックシンドローム該当者の割合が多い (全国ワースト4位(県民データ)) ・肥満傾向の子どもの割合が高い ・県民の健康に関する意識向上や高齢者の介護予防の強化が必要 ・東日本大震災・原子力災害の影響を踏まえた健康づくり
健康・心身・子育ての育育をかなへる健康増進策が実施されている	④心身に健康・心身に健康づくりが実施されている ⑤地域や企業等が一体となり、健康な暮らしを支える取組が実施されている	・高齢者や子育て世代と関連した出生率や子育て支援策の充実が必要 ・健康に関する意識向上や高齢者の介護予防の強化が必要 ・東日本大震災・原子力災害の影響を踏まえた健康づくり
子どもたちが多様な個性をいかしながら、夢や希望をかなへる教育環境が確保されている	⑥健康や技術的な心身に育育と健康増進策が実施されている ⑦県民の健康の増進と健康増進策が実施されている	・全国学力・学習状況調査において、算数・国語が全国平均を下回っている ・健康に関する意識向上や高齢者の介護予防の強化が必要 ・東日本大震災・原子力災害の影響を踏まえた健康づくり
健康を促進し、人々の暮らしを支えるサービスを提供している	⑧高齢者が健康・心身に健康づくりが実施されている ⑨高齢者の健康増進策が実施されている	・高齢者の健康増進策が実施されている ・健康に関する意識向上や高齢者の介護予防の強化が必要 ・東日本大震災・原子力災害の影響を踏まえた健康づくり
本県の魅力や個性の発信により、県民の健康増進策が実施されている	⑩県民の健康増進策が実施されている	・健康に関する意識向上や高齢者の介護予防の強化が必要 ・東日本大震災・原子力災害の影響を踏まえた健康づくり

⑭インフラ、産業化、イノベーション等(平準等)自給可能な都市・自給可能な農産と畜産

政策・施策	基本指標(成果指標)
①若い世代から高齢者までライフステージに応じた疾病予防 ②食・運動・社会参加による健康づくり ③高齢者の介護予防の強化 ④東日本大震災・原子力災害の影響を踏まえた健康づくり	健康寿命 ●健康寿命(平均年齢)の向上 ●健康寿命(平均年齢)の向上 ●健康寿命(平均年齢)の向上 ●健康寿命(平均年齢)の向上
⑤生活習慣病対策に関する取組 ⑥がん検診に関する取組 ⑦食育に関する取組 ⑧運動による健康づくり ⑨高齢者に関する取組 ⑩介護予防に関する取組 ⑪地域包括ケアシステムの構築	健康寿命 ●健康寿命(平均年齢)の向上 ●健康寿命(平均年齢)の向上 ●健康寿命(平均年齢)の向上 ●健康寿命(平均年齢)の向上

P48~53
政策分野別の主要施策の体系
 本県の目指す将来の姿(全体像・SDGsの視点)、その実現に向けた主な課題、そして、その課題に対して県が取り組む政策や施策、指標までを一連の体系として示しています。

将来の姿	主な課題	政策・施策	基本指標(成果指標)
全体像 誰もが生涯を通じて健康で、人とのつながりを大切にしながら、いきいきと暮らしている (県民健康調査や、被災者の状況に応じた支援などにより、県民の健康の増進、増進及び不安解消が図られている)	SDGsの視点 ③若い世代から高齢者まで県民一人一人が心身ともに健康な生活を送っている	政策・施策 ①若い世代から高齢者までライフステージに応じた疾病予防 ②食・運動・社会参加による健康づくり ③高齢者の介護予防の強化 ④東日本大震災・原子力災害の影響を踏まえた健康づくり	基本指標(成果指標) ●健康寿命 ●がん検診受診率 ●がんの早期発見率(全がん・見守り75歳未満・人口10万人) ●認知症の有病率20歳以上の者の割合及び65歳以上20歳未満の者の割合など ●成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率 ●高齢者出席率の向上 ●被災者の心のケアへの参加率 ●被災自治体の特定保健指導実施率

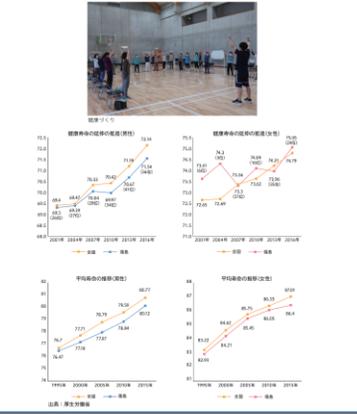
POINT 4

具体的な取組、指標など

P55~150 政策分野別の主要施策
 POINT 3 で示した一連の体系に基づく政策や施策、主な取組、指標を記載しています。各部署が関連する業務はここで具体的に示しています。

「ひと」分野 政策 1

全国に誇れる健康長寿県へ
 本県は、東日本大震災以降、メタボリックシンドローム該当者も多く(全国ワースト4位(県民データ))、肥満傾向の子どもの割合が全国平均よりも高い、心身ともに健康な生活を送っている。健康増進策が実施されている。また、東日本大震災・原子力災害の影響を踏まえた健康づくりの取組が実施されている。健康に関する意識向上や高齢者の介護予防の強化が必要。東日本大震災・原子力災害の影響を踏まえた健康づくり



政策	取組	指標
1	若い世代から高齢者までライフステージに応じた疾病予防	健康寿命(平均年齢)の向上
2	食・運動・社会参加による健康づくり	健康寿命(平均年齢)の向上
3	高齢者の介護予防の強化	健康寿命(平均年齢)の向上

政策	取組	指標
1	若い世代から高齢者までライフステージに応じた疾病予防	健康寿命(平均年齢)の向上
2	食・運動・社会参加による健康づくり	健康寿命(平均年齢)の向上
3	高齢者の介護予防の強化	健康寿命(平均年齢)の向上
4	東日本大震災・原子力災害の影響を踏まえた健康づくり	健康寿命(平均年齢)の向上

